

各関係機関・団体の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成18年度病害虫発生予察特殊報第1号について（送付）

県内のトマトにトマトすすかび病 *Pseudocercospora fuligena* (Roldan) Deighton の発生が認められ、特殊報第1号を発表したので送付します。

なお、病害虫防除所ホームページ（www.jpnn.ne.jp/kagoshima）にも掲載する予定です。

病害虫発生予察 特殊報第1号

平成19年3月7日

鹿児島県病害虫防除所

1. 病害虫名 トマトすすかび病 *Pseudocercospora fuligena* (Roldan) Deighton

2. 作物名 トマト, ミニトマト

3. 発生確認の経過

平成18年11月下旬に薩摩郡さつま町の施設栽培の葉かび病抵抗性品種のトマトで、葉かび病に類似した病害が発生し、本年1月下旬に鹿児島県農業総合開発センター生産環境部でトマトすすかび病 (*Pseudocercospora fuligena* (Roldan) Deighton) と確認した。このため、2月に県内のトマト・ミニトマトほ場を調査した結果、大口市のミニトマトでも発生が確認された（表）。

なお、本病は平成17年に薩摩郡さつま町のトマトで初確認されていた（農業改良普及センター調査）。

4. 病徴

本病は葉に発病し、初め葉裏に不明瞭な淡黄緑色の病斑が現れ、やがて灰褐色粉状のかびを生ずる。病斑は次第に拡大して、円形あるいは葉脈に囲まれた不整形となり、古くなるとかびの色は灰褐色から黒褐色に変わる（写真1）。葉表には、葉裏よりやや遅れて不明瞭な淡黄褐色の病斑を生じ、かびを生ずるが、葉裏に比べて少ない（写真1）。

葉かび病に類似するが（写真2）、病斑部に形成される分生子の顕微鏡観察により容易に判別できる（写真3, 4）。

5. 病原菌の特徴等

（1）特徴

糸状菌の一種で不完全菌類に属する。分生子は淡黄褐色、鞭状または円筒形で、先端は

少しくびれ，小型の油胞がある。大きさは不同で（13.3～170.3×2.7～5.6μm），0～15個の隔壁を有する。菌の生育適温は26～28℃，分生子の形成適温は18～22℃，分生子の発芽適温は26℃付近である。

（2）伝染経路

被害作物の残渣の中で越冬し，翌年の伝染源となる。多湿条件で発病しやすく，過繁茂，換気不十分の施設栽培で発病しやすい。

6．国内での発生状況

本病は平成8年に宮崎県で初発生が確認されて以来，1府12県のトマト，ミニトマトで発生が報告されている。

7．防除対策

（1）多湿条件下で発病しやすいので，過繁茂をさけ通風換気に努める。

（2）発病葉，被害残渣は伝染源となるので，ほ場外に持ち出し適切に処分する。

表 トマトほ場(施設)でのすすかび病発生状況

市町名	作物	葉かび病抵抗性品種	調査ほ場数	発生ほ場数(%)	発病葉率(%)
出水市	ミニトマト	×	4	0 -	-
大口市	トマト		43	0 -	-
大口市	ミニトマト		2	1 (50)	(30)
さつま町	トマト		23	4 (17)	(1～30)
霧島市	トマト		4	0 -	-

大口市は農業改良普及センターによる調査

さつま町は一部農業改良普及センターによる調査

：葉かび病抵抗性品種，×：かび病罹病性品種



【写真1】すすかび病の病斑（左：葉裏 右：葉表）

初め葉裏に不明瞭な淡黄緑色の病斑が現れ、やがて灰褐色粉状のかびを生ずる。病斑は次第に拡大して、円形あるいは葉脈に囲まれた不整形となり、古くなるとかびの色は灰褐色から黒褐色に変わる。葉表には、葉裏よりやや遅れて不明瞭な淡黄褐色の病斑を生じ、かびを生ずるが、葉裏に比べて少ない。



【写真2】葉かび病の病斑

ビロード状のかびを密生し、菌叢は古くと黒褐色になる。



【写真3】すすかび病の分生子

先端は少しくびれ、小型の油胞がある。
大きさは不同で0～15個の隔壁がある。



【写真4】葉かび病の分生子

（単胞または2胞の紡錘形）